

038 断食についての問答

ルカによる福音書 5 : 33~39、マタイ 9 : 14~17、マルコ 2 : 18~22

▶断食についての問答（ルカによる福音書 5 : 33~39）

33 人々（→バプテスマのヨハネの弟子たちやファリサイ派の人たち）はイエスに言った。

「ヨハネの弟子たちは度々断食（→食事を断ち、神への熱き思いを示し、自らの罪を悔いる行為）し、祈りをし、ファリサイ派の弟子たちも同じようにしています。しかし、あなたの弟子たちは飲んだり食べたりしています。」

34 そこで、イエスは言われた。

「**花婿と一緒にいるのに、婚礼の客に断食させることがあなたがたにできようか。** 35 **しかし、花婿が奪い取られる時が来る。その時には、彼らは断食することになる。**」

36 そして、イエスはたとえを話された。

「**だれも、新しい服から布切れを破り取って、古い服に継ぎを当てたりはしない。そんなことをすれば、新しい服も破れるし、新しい服から取った継ぎ切れも古いものには合わないだろう。**

→新しく洗っていない布は洗うと縮んでしまうので、もしそれが古い衣服の継ぎ布に用いられると、その衣服も縮んでしまうことになるし、色合いも合わない。

37 **また、だれも、新しいぶどう酒を古い革袋に入れたりはしない。そんなことをすれば、新しいぶどう酒は革袋を破って流れ出し、革袋もだめになる。** 38 **新しいぶどう酒は、新しい革袋に入れねばならない。**

→ぶどう液がぶどう酒になる時、アルコールとほぼ同量の二酸化炭素（炭酸ガス）が発生し、新しい皮袋は膨張し引き伸ばされる。もし、新しいぶどう液を古い皮袋に入れると、その革袋は膨張し破裂してしまう。



39 **また、(熟成が進んだ) 古いぶどう酒を飲めば、だれも新しい (酸っぱいだけの) ものを欲しがらない。『古いものの方がよい』と言うのである。**

【参考】 貧困者に支持者の多いファリサイ派 →ヘレニズム (=ギリシア風) 文化に対して否定的

ユダヤ教の教派で、イエスの時代に最も高く評価されていたのは、中間時代に誕生したファリサイ派で、この時代、民衆にとっては、ユダヤ教=ファリサイ派的ユダヤ教であった。

ファリサイ派はハスモン朝^{※1}時代に形成され、天使、悪霊、魂の永遠性、死後の世界を信じ、律法遵守を徹底し、特に安息日や断食（週2回、木曜日と金曜日）、施しを行うことや清めの儀式を強調した。

律法学者（モーセ五書〈トーラー〉—創世記、出エジプト記、レビ記、民数記、申命記—を研究する学者）の多くがファリサイ派に属し、聖書（旧約）の独自の研究と伝承による解釈を固執、主張した。 聖職者である律法学者（ラビ rabbi）を信仰の仲介者とし、ユダヤ人会堂の多くを管理していた。ファリサイ派は、律法を研究、遵守して、どのように生きるべきかについて教えていたために、民衆に尊敬されていた。ファリサイ派の名称は、「パルーシム（パルシム）」=「分離する者」あるいは「清い者」を意味するヘブライ語に由来するとされるが、正確には不明である。

ユダヤ人指導者の中には密かにイエスを信じる者もいたが、ユダヤ人会堂から追放されるのを恐れ、このことを公言しなかったし、もし、それが発覚した場合は、ユダヤ人指導者たちは、イエスを信じるようになった者をユダヤ人共同体や会堂から追放した（ヨハネによる福音書 9 : 22）。

イエスを訪問したニコデモは最高法院に属する議員で、ファリサイ派の教師でもあった（ヨハネによる福音書 3 : 1）。

また、ファリサイ派の人々はイエスが自分たちの立場や影響力を脅かすと考え、イエスを殺そうと企ん

だ（マタイによる福音書 26：1～5、マルコによる福音書 14：1～2、ルカによる福音書 22：1～6、ヨハネによる福音書 11：45～57）。

エルサレム神殿の崩壊（AD70年）後はユダヤ教の主流派（神殿に拠っていたサドカイ派は消滅）となり、会堂に集まって聖書を読み、祈りを捧げるスタイルが、ユダヤ教のスタイルとなっていった。

※1：BC 140年頃からBC 37年までユダヤの独立を維持して統治したユダヤ人王朝。BC 166年に起きたユダ・マカバイによるセレウコス朝軍への決起から約20年後に成立。フラウィウス・ヨセフスによればハスモンという名は一族の先祖、祭司マタティアの祖父の名前に由来しているといわれている。



フラウィウス・ヨセフスは、帝政ローマ期の政治家及び著述家である。AD66年に勃発したユダヤ戦争でユダヤ軍の指揮官として戦ったがローマ軍に投降し、ティトゥスの幕僚としてエルサレム陥落にいたる一部始終を目撃、後にこの顛末を記した「ユダヤ戦記」や「ユダヤ古代誌」を著した。

ヨセフスは、青年時代にサドカイ派やエッセネ派などを経て、最終的にファリサイ派を選んでいる。

【参考】新約聖書にある「イエスと断食」

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 7 / 聖句等の総数 33250 <断食>9個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: 断食]
S マタイによる福音書	4:2 そして四十日間、昼も夜も断食した後、空腹を覚えられた。	
S マタイによる福音書	6:16 「断食するときには、あなたがたは偽善者のように沈んだ顔つきをしてはならない。偽善者は、断食しているのを人に見てもらおうと、顔を見苦しくする。はっきりしておく。彼らは既に報いを受けている。	
S マタイによる福音書	6:17 あなたは、断食するとき、頭に油をつけ、顔を洗いなさい。	
S マタイによる福音書	6:18 それは、あなたの断食が人に気づかれず、隠れたところにおられるあなたの父に見ていただくためである。そうすれば、隠れたことを見ておられるあなたの父が報いてくださる。」	
S マタイによる福音書	9:14 そのころ、ヨハネの弟子たちがイエスのところに来て、「わたしたちとファリサイ派の人々はよく断食しているのに、なぜ、あなたの弟子たちは断食しないのですか」と言った。	
S マタイによる福音書	9:15 イエスは言われた。「花婿が一緒にいる間、婚礼の客は悲しむことができるだろうか。しかし、花婿が奪い取られる時が来る。そのとき、彼らは断食することになる。	
S マタイによる福音書	17:21 (十底本に節が欠落 異本訳)しかし、この種のもの、祈りと断食によらなければ出て行かない。	
S マルコによる福音書	2:18 ヨハネの弟子たちとファリサイ派の人々は、断食していた。そこで、人々はイエスのところに来て言った。「ヨハネの弟子たちとファリサイ派の弟子たちは断食しているのに、なぜ、あなたの弟子たちは断食しないのですか。」	
S マルコによる福音書	2:19 イエスは言われた。「花婿が一緒にいるのに、婚礼の客は断食できるだろうか。花婿が一緒にいるかぎり、断食はできない。	
S マルコによる福音書	2:20 しかし、花婿が奪い取られる時が来る。その日には、彼らは断食することになる。	
S ルカによる福音書	4:2 四十日間、悪魔から誘惑を受けられた。その間、何も食わず、その期間が終わると空腹を覚えられた。	
S ルカによる福音書	5:33 人々はイエスに言った。「ヨハネの弟子たちは度々断食し、祈りをし、ファリサイ派の弟子たちも同じようにしています。しかし、あなたの弟子たちは飲んだり食べたりしています。」	
S ルカによる福音書	5:34 そこで、イエスは言われた。「花婿が一緒にいるのに、婚礼の客に断食させることがあなたがたにできようか。	
S ルカによる福音書	5:35 しかし、花婿が奪い取られる時が来る。その時には、彼らは断食することになる。」	

レビ記 11 章によれば、動物についてはまず草食動物で、割れたひづめと反芻することが条件となる。海や湖に住む生き物では、ひれと鱗のある物は食べても構わない。しかし、エビ、カキ、タコなどはだめです。

鳥については、食べていけない鳥の名、例えば禿鷲（ハゲワシ）などがあげられている。

猛禽類や死肉を食べる鳥などもだめです。条件を満たした生き物でも、野外で獣に殺された動物の肉を食べることを禁じています（出エジプト記 22:31）。ただし、植物については、特に制限はありません。

イスラエルの朝食は、チーズやミルクが出て、同時にハムやソーセージが出ることはありません。

聖書の中に、「あなたは子山羊をその母の乳で煮てはならない」（出エジプト記 23:19 他）という聖句が出てきます。それがユダヤ教のラビによって、拡大解釈されて、肉と乳製品を分けて別に食べるように規定されるようになった。更にこの規定は厳格になって、一方を食べたら、何時間か間をおかないと他方を食べることはできないとなった。また、屠殺にも厳しい条件があり、その方法で処理した肉でないと、食べることは許されていない。